

# 墨 翔

発行 兵庫県水墨画協会  
 理事長 盛 静山  
 事務局 神戸市北区筑紫が丘  
 5-5-18  
 井上 宣子 氏  
 TEL&FAX  
 078(583)2793

## 十五周年記念を迎えて

理事長 盛 静山

墨の芸術は二千年の伝統を持つ東洋文化です。その水墨画芸術を守る兵庫県水墨画協会は、流派と会派を超えて誰でも出品出来て楽しみながら水墨画を学び研究し、技術と水墨文化の向上を目指して創立しました。

令和の新年と共に十五周年展を開催し盛大裡に終了しました。創作部門、小品部門、又ジュニア部門を年毎にその数も増し作品の内容も充実しました。技術の向上、墨の美しさもあり、自分の心に感じた作者の創造性を表現した作品等、皆作者の品格が素直に出ていて「気韻生物」に満ちた展覧会になり兵庫県唯一の展覧会になって来ました。これも会員皆様の努力と協力の事と心からお礼申し上げます。

年度計画の研修会は九月十三日

原田の森ギャラリーにて催しました。日本水墨画美術協会理事長の濱中先生の「水墨画の紙に委ねる」と題して、日本の水墨画を通して墨の美しさと作品の作り方、紙と墨との関連性を実技を通して研修しました。会員、一般の方も数多く出席し好評良く終了しました。来年は水墨作品の墨と実技を主体とした研修会を予定しています。

十五年間会員の皆様の御協力に心から感謝すると共にこれからも水墨画を通して美しい心の和と美術の輪を広げ切磋琢磨しながら楽しい平和な人生を歩みたいと思っています。

## 想 い

副理事長 いのうえ のぶい

記念すべき十五周年の公募展の幕が開いた。

公募展として、協会を立ち上げ

て、なにもかも手探りの中で十年を迎え、そして十五周年。記念の祝賀会は神戸北野の六甲荘で開催、胸に迫るものがある。いろいろな方面の方々の力添えを得て、

今がある。今や関西圏はもとより、広島、岡山、東京、北海道と少しずつではあるが、全国規模になりつつある今年であった。初出品者が約三十名と。会場が狭く感じられ、キャプションを貼るスペースもないほどうれしい悲鳴であった。

この十五年で、毎年六月は公募展の月と定着して六月をめざして一年間の行動をしていらっしやると思う。風景あり、花など植物あり、

又人物、動物など、さまざまな画題で観る者を飽きさせない。感動や感激したこと、大好きなものなどを、自分が楽しんで筆を執ると観る人にとっても、その感動なり思いが伝わるものである。いかに自分の気持ちや作品にのせられるかが、大きな、大きな課題。自分の感動を作品にぶつけてみよう。若い力が産声を上げている。これからの五年後が楽しみである。

## 研修会に参加して

濱中広彦先生講演「紙に委ねる世界」 向 敬子

先生は「にじみ」を「紙に描いてもらう」と表現します。紙に描かれたにじみは、紙・温度・湿度・季節、色々な物が影響しあって出来ると教えていただきました。

確かに膠の伸び具合は季節やお天気の影響されます。

日が違うだけで、同じ模様を出したいと試行錯誤を繰り返しても、思う様な具合には、なかなか出来てくれません。悔しいけど、また、別の自分なりの表現方法を発明し己を慰める事が出来たら、御の字でしたが、この先生の一言で大切な事に気がつきました。

にじむ紙は順序が大切だと説かれ、目の前で解説しながら描いていただき、本当に様々な技術とその理由・奥義をご教授下さいました。非常に内容が濃く、もっと聞きたいと渴望しました。

研修会に参加出来た事に感謝します。



## 審査員の講評

女子美術大学

名誉教授 橋本 弘安

兵庫県水墨画協会十五回記念展には、多くの秀作や新しい試みを感じさせる作品が集まり、水墨画

表現の様々な可能性が感じられると共に、それぞれの作品が何か元気で流らつとしていて、拝見していて気持ちのよいものでした。賞となった作品だけでなく魅力的な佳作が多くあり選考に苦勞しました。兵庫県水墨画協会大賞に輝いた「水韻」の大作は、滝の流れと共に光が紙の白さも生かしの確に表現されその構図と共に大賞にふ

さわしい作品です。  
議長賞の「雅」は、老木に吹く風が描かれた作品でその風という抽象的な表現が墨で表わされている秀作です。  
神戸市教育委員会賞の「冬光」は、雪原に落ちる木の影とその地形の動きを巧みに構成した作品でその

神戸市長賞



「優美」  
阪本 敬子

兵庫県水墨画協会大賞



「水韻」  
伊藤 正

兵庫県知事賞



「中国の冬景色」  
柳井 卓子

明快さに冬の日ざしを感じる秀作でした。  
「麗」と題された原田の森ギヤラリー館長賞は、芙蓉の花が軽妙な筆さばきで描かれ、その墨の濃淡、彩墨が作るリズム感に魅せられる作品でした。  
十五回展記念賞のひとつとして

「東雲」が選ばれましたが、電信柱の逆光と雲に夕暮れの光が感じられる佳作でした。  
十五回展を越える創作意欲あふれる秀作をこれからも期待いたします。

西宮市大谷美術館

館長 越智 裕二郎

神戸市長賞「優美」は、蘭の花を中央に配し、隈をつけて、その白さ、色を際立たせているのがおもしろい。左・右、上・下に色感を変えながら配置したのも絶妙である。

神戸市会議長賞「なかよし」は、なかなか力のある作家である。犬と猫が仲良くしているところを捉えた作品。背景を墨でつぶし、犬と猫を際立たせている。台は大理石であろうか、紋様にもにじみを使い、質感表現に意を用いている。右下の朱文印も効いている。  
神戸新聞社賞「怒」は、画面一杯に猪の顔を正面から捉え、こちらを睨みつけている。目と牙と鼻、面構えが絶妙で、耳、頭の上のこぶの墨が顔の左や下と連動して、

この作品をさらに生き生きとさせている。

市長賞総評は、水墨画を始めて一つの水準に到った作品が選ばれている。さらに墨の技術を磨いていくことは必須のこととして、画題の選択や構図については、古今の名画を見ていただいて作家の感覚・感性をも身に付けていくことも、今後の向上には資することと思われる。

日中書画芸術交流会

会長 陳 允陸

兵庫県水墨画協会成立十五周年、おめでとうございます。

今年の応募作品は全体的にレベルが高いと印象を受けました。十五周年記念にふさわしい作品展になると思います。今回の作品では題材が幅広く描かれて、伝統的な技法の表現と現代的な画風まで、墨の芸術を十分に堪能できると評したいと思います。

特に、兵庫県知事賞受賞作品「中国の冬景色」では、安定した構図で、樹の表現と建物の描写と対比し、とても新鮮感がある作品であ

ります。墨色がうまく表現され、完成度が高い秀作であります。兵庫県教育委員会賞の作品「深山夕照」、白と黒と対比し、迫力がある作品であります。大胆な筆使い、特に墨の滲みを十分に表現され、味わいがある作品となっております。(公財)兵庫県芸術文化協会賞の作品「千古の木霊」では、古木をしっかりと描かれ、安定した構図と墨色もきれいでレベル高い作品であります。神戸市民文化振興財団賞の作品「故郷」では、全体的にバランスが取れて、樹の描写もしっかりと描かれて、特に瀧の部分には勢いがあり、淡墨がうまく表現された作品であります。  
絵は心の表現であり、感動したと言われるように作品をどんどん描いてくれることと願っております。来年の力作を期待しております。





受賞者の作品への思い

吉野郡大淀町 伊藤 正

この作品の構図は、中央のやや右を中心にしてそこに視線が集まり、又そこから流れが広がるようまず一点透視で構図を決めた後、上部は下から見上げている様に、また下部は上から見下ろしている様に、影や岩の形を意識的に変え、最下部には水煙を描くことによりスケール感のある構図になったのではないかと思います。

画はまず淡墨湯筆で中央の岩を描き、水の流れに合わせて下の岩、その後、右サイドの岩から上部の奥の岩へと描き進めました。

吹田市 阪本 敬子

今年はコチヨウ蘭の「白」にこだわって描いてみました。「白」を表現しようとすると、周りの蘭、葉を濃く描かなくてはならず、かといって濃すぎてもまたバランスがとれず、色合いにこだわってこれ位でいいかなあと、何度も立ち止まって、壁に貼って、

ながめて、をくり返した作品です。今後も、自分の描きたい物に、楽しく取り組んでいきたいと思えます。

神戸市 林 静佳

兵庫県水墨画協会は現在、全国公募になりましたが、発足当初は地元で根付いた会ではなかったかと存じます。第一回展は、日本の南画と言われる作品が多く、この兵庫県には一昔前、南画水墨画を広めた偉大な先生方がいらっしやうと容易に想像が出来ます。芸術は社会と共に時代と共に変化をします。現在ではイラストや洋画のような作品もあり、来場者を大いに楽しませています。

この度、創立十五周年展を迎え、発足当初の先生方の思いにふれて見たいと感じた次第です。

三木市 片寄 知

娘の犬と猫を題材に選びましたが、二匹を並べるだけでは面白くないと思ひ、猫が犬の頭に手を置いて、よしよしとするともっと仲良く見えるかなと思ひ、この形にしましたが、娘には「頭をおさえ

られている」と不評でした。来年も又がんばりたいです。

高梁市 片山 邦彦

歴史ある当協会の会員になって、頑張ってみたくなりました。八十二歳になり、ますます、楽しく描きたいと思ひます。

西宮市 杉野 治夢

とにかくイノシシの姿を借りて、私の内にある「怒り」をぶつけてみたかったです。

鋭い目(まなこ)、紙いっばいの顔をその表現の一番のポイントだと思ひ、力を込めました。

宝塚市 荒木 睦男

楽しく続けられることをモットーに日々努力していきます。

定年退職後始めた水墨画、本を見ながら独自の方法で描きながら年数を数えています。手抜きが出来ない性格か、描き込み過ぎか、満足できる作品はなかなかできません。

今回の皆様の作品を参考に、来年は一步上を行けるように頑張ります。

西宮市 生野 勝正

美しい心を描くことを目指して頑張っています。

今回は「気」の表現を何とか描くように励みました。

江別市 中村 礼子

私にとっては出品は今回で十回目です。

大好きな神戸に訪れていつも勇気、元気、やる気をいただけて帰ってきています。これからも頑張っていきたいと思ひています。

三田市 松村 裕子

友達と篠山城へ花見に行き、帰りにたまたま川代溪谷に立ち寄り思わず、溪谷の岩の荒々しさに魅せられて、描いてみました。

岩の表現が難しかったです。

今後共、楽しみながら旅行先などで感動した風景を描いてみたいと思ひます。

西宮市 向 敬子

人生山あり谷あり、色々な事があります。

水墨画は不思議なもので、墨の色、にじみ等、自分の心を写す鏡の様だと感じます。

これからも自分自身を導き、磨く指針として、水墨画と共に成長していきたいと思います。

三木市 末廣 恵美子

私は七十歳から水墨画を始めました。今回は高輪になりました。小品部門で出品する事が出来ました。



## 祝賀会参加者からの声

○ 皆様のすばらしい力作を拝見させて頂きまして、とても勉強になりました。自宅一人で描いていたのでは、わからないような色々な物を見せて頂きました。私はまだまだ若手ですので皆様の作品を目標にこれからもがんばって行きたいと思えます。

○ 初めての参加で何もかも見聞きすることで勉強になりました。祝賀会も楽しく皆さんなかよくして下さり嬉しかったです。存じ上げる方もいなかった会ですが有意義な時となり感謝の念でいっぱいです。

○ 美しい心で美しい絵が描けると教えていただきました。これからも心を磨き少しでもきれいな絵が描けるよう精進してまいります。

○ すばらしい会に参加出来る幸せ一杯です。来年に向けて、初心にもどり作品



## 水墨画と出会う

竹内 真弓 (南横)

墨を摺るとやさしい良い香りがします。心が落ち着き紙に向かう。水墨画の良さは、ここから始まります。

素敵な先生と出会い、墨色の美しさ重視で教わりました。又色々な作品を観る事が一番の勉強だとおっしゃいます。美術館や展示会を見に行くことも一つの楽しみとなりました。教室の皆と情報交換をしたりと交流も広がりました。基本の練習から、自分で思い描いた絵を仕上げる事が出来る様になると、ますます楽しくなりました。先日の研修会の折にも、話題に上がりましたが、用紙や墨の種類でかなり変化があります。色々な技法、にじみ、まだまだ勉強する事がたくさんあります。

モノトーンの世界の中に、静けさ、冷やりした空気、暖かな風、奥深さ、神秘的な雰囲気、臨場感あふれる絵が描けたらと思います。古き良き水墨独特の良さも入れ、新しい水彩画の様な感じも取り入れた作品を描いていきたいと思っています。そして奥深い水墨画、心安まる墨の香り、是非、子供の頃から墨に親しみ、水墨画に触れて欲しいと思います。

作りに頑張ります。お食事もとて美味しくいただきました。

## 伝統文化体験フェスティバル

杉野 柏蓉

今年も三月に、兵庫県芸術文化協会の「伝統文化体験フェスティバル」が、兵庫県公館で二日間開催されました。そこで、当協会も三月十日(日)に水墨画の体験コー

後半のスタートは、新しい方に席に着いていただきスタートするというところで実施しました。

子供から大人の方まで、日本人だけではなく外国人の方にも参加して頂けて、楽しんでいただけただけでなく外国人の中には日本語の通じない方もおられたのですが、身振り手振りで進めさせていただきました。

前半、後半合計で八十四名の方が参加されました。そして、その内の十五名の方に、原田の森ギャラリーでの公募展に出品していただき、来観者にとっても好評でした。



## 展示会場でいただいたアンケート

杉野 柏蓉

今年も兵庫県水墨画協会公募展を、六月二十六日(水)～三十日(日)まで開催しました。その期間中にいただいたアンケートをまとめました。

○ 六十～七十才代が多く、神戸

市の方、女性の方が多く書いてくださいました。

○ 画題については、年代にあまり関係なく、特に風景が好まれるようです。花鳥・山水が続いていました。

○ 公募展を友人から聞いた方が多く、ホームページを見てという方はごく少数でした。ホームページをもっと多くの方に見て頂き、若い方が興味を持ってくれるといいなど、期待しています。

○ 会場には一人で来られた方が多く、一人でゆっくり、じっくり観られたのではないかと思います。

○ 来場回数は、初めての方も多かったのですが、何回も繰り返し来場の方も多く、うれしく思っています。

## 編集後記

毎回ですが、戴いた声をすべて掲載できなくて申し訳ありません。今年も、公募展への応募作品の数が増えました。これからも、多くの方が出品して下さいを、期待しております。

原稿にもご協力お願いします。